

# 黒田如水のような、菓子をつくれ。



黒田長禮公から頂いた藤巴の瓦ともなか黒田五十二萬石

如水公への思いをこめて、六十数年。  
時は、昭和二十六年。「旧福岡藩の歴史にふさわしい菓子を作りたい」という強い思いを抱いた如水庵の先代社長森正美は、黒田官兵衛(如水)のご子孫黒田長禮公のもとを訪れた。その熱い思いを伝えると、長禮公は家紋の使用を快諾くださり、「藤巴」の紋が入った屋根瓦をくださった。その紋を写し取り、精魂こめてつくりあげたのが、「もなか黒田五十二萬石」なのです。現社長の森悦次郎は「黒田如水のように生きよ」という先代社長の言葉と、如水への深い尊敬の念から、屋号を「如水庵」と改名。平和の世をつくるため創意工夫を重ねた黒田如水のように、おいしく、健康によいお菓子で、家庭の平和と世界の平和に貢献する。如水庵の二つの菓子には、そんな願いが込められています。



もなか  
くろだ ごじゅうに まんごく  
黒田五十二萬石

## 10月25日新発売 官兵衛の赤合子



### 天才軍師官兵衛

豊臣秀吉の参謀として、秀吉の天下統を演出した天才軍師、黒田官兵衛(隠居名如水)。彼は、福岡藩祖。この福岡の町の基礎を作った人物です。生涯五十数度の合戦で度も負けを知らなかった戦の天才、軍師官兵衛が愛用した兜が「赤合子」(朱塗合子形兜)。戦場で赤合子を見た敵兵は、相手の将が軍師官兵衛であると知り「この戦は勝てない」と戦意喪失したそうです。「官兵衛の赤合子」と恐れられたこの兜、合子とは、ふたつきの器のこと。当時、戦国大名が趣

向を凝らした変わり兜の中でも、とてもユニークな形をしています。この兜は、如水公の正室、光姫の里である櫛橋家から婚約の祝いに贈られたものといわれています。如水公は全戦全勝の天才軍師でしたが、「なるべく人を殺さずに勝ちを手にすること」が彼の真骨頂でした。秀吉が天下統一すれば、戦はなくなり民が平和に暮らせる世の中になる。彼が秀吉の参謀として天下統一に邁進したのは「悲惨な戦乱の世を終わらせて、平和な世の中にした。」という悲願があったからなのです。如水公が仕えた

織田信長豊臣秀吉は、如水公の天才軍師ぶりをこう評しています。信長曰く「官兵衛、敵をすぐさま追い崩し、あまたを討ち取った旨、神妙である」。秀吉曰く「官兵衛の謀、凡人の及ぶところにあらず」。

そして、最終的に天下を取った徳川家康は如水公のことを「今の世に、古の道をゆくは、如水ただ一人」と言い、名譽にも権力にも執着せず自らの生き方を貫いた男と讃えました。福岡市博多区千代にある黒田家の菩提寺崇福寺にある如水公の墓石に「内府家康、此言を聞いて曰く、「今に處りて古を行ふは、居士を除くの外又誰ぞや、至れり、玄し。」と記されています。

**官兵衛の赤合子**  
黒糖生地で粒あんを包んだ「餅どら」で「官兵衛の赤合子」をあらわしました。独自の技術で開発した生地のモチモチとした食感をお楽しみ下さい。

### 官兵衛の赤合子

1個	158円
4個入	735円
6個入	1,050円
12個入	2,100円

### 次回予告!!



黒田官兵衛がキリスト教に  
入信した際の洗礼名  
「シメオン」  
にちなんだお菓子が  
12月1日デビュー!  
ぜひお楽しみに!

### 大好評

### 太鼓焼専門店 黒田藩 太鼓焼

9月1日より西鉄福岡駅の北口改札前広場にオープンした太鼓焼き専門店黒田藩太鼓焼。おかげさまで大好評をいただいています。太鼓焼きの焼きたての香ばしさが、通勤や通学、お買い物の皆様を引き寄せるのか、多くの方々に行列していただく程の大賑わいで、スタッフ一同嬉しい悲鳴を上げています。皆様もぜひ、赤の藤巴を目印にお立ち寄りください。

